

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(宛先) 川崎市長

郵便番号 163-1566  
 住 所 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号  
 氏 名 野村不動産株式会社  
 代表取締役社長 松尾 大作

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第10条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	野村不動産株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 幸区堀川町72番34号 ラゾーナ川崎東芝ビル		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	住宅販売、オフィスビル・物流施設・ホテル賃貸、商業施設運営		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		3,216 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2023 年度 ~ 2025 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

#### (1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

不動産開発と不動産関連サービスの連携による街づくりや商品・サービスを通じて、世界共通のテーマである気候変動課題に対してCO2排出総量削減に寄与するものとして、「脱炭素」「生物多様性」「サーキュラーデザイン」の3つの重点課題（マテリアリティ）を特定し、全社的な取り組みを推進していきます。また、これまで当社グループは、SBT認定の取得（2019年度比35%削減）、TCFDの賛同、RE100への加盟など、国際的なイニシアティブへの参加を進めており、今後もこうした参加を通じて積極的に役割を果たしていきます。

#### (2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（P D C Aサイクル）を行うための方針

当社グループでは、野村不動産ホールディングス代表取締役社長 兼 グループCEOを責任者として据え、グループ全体で環境に関する取り組みを進めています。野村不動産ホールディングスおよびグループ会社の取締役などで構成する「サステナビリティ委員会」（委員長：野村不動産ホールディングス代表取締役社長 兼 グループCEO）において、関連方針や活動計画を審議し、決定しています。その他に、重要課題である脱炭素、生物多様性、サーキュラーデザインに関する目標を設定し、進捗状況のモニタリングを行っています。また、同委員会の下部組織として、環境分科会（責任者：品質管理・建築統括役員他）を設置しています。なお、2019年5月には国連グローバル・コンパクトに署名しており、同イニシアティブの原則に基づき、気候変動の緩和など環境問題に対して予防原則的アプローチを支持し、積極的に環境問題に対する責任を果たしていきます。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

階層別研修(グループ新入社員研修、グループ基幹職研修)のプログラムの一つとして毎年全社員に対して環境に関する教育を行うほか、社内報などに環境課題に関する取り組みを掲載することで、社員の環境に対する意識啓発を促しています。また、グループ各社の建築・商品設計・技術担当者などで構成する環境分科会において、環境課題、最新の環境関連技術の共有などを実施しています。

環境分科会(2022年4月時点)

担当役員	野村不動産ホールディングス 品質管理・技術統括役員 他
担当部店	野村不動産 商品戦略部、品質管理部、技術管理部、建築部 野村不動産パートナーズ 環境技術部、経営企画部
事務局	野村不動産ホールディングス サステナビリティ推進部

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2022				年度
目標	年度	2025				年度
基準	排出量	(実) 4,291 (調) 5,732	t-CO <sub>2</sub>	(実)	(調) t-CO <sub>2</sub>	
目標	排出量	(実) 4,142 (調)	t-CO <sub>2</sub>	(実)	(調) t-CO <sub>2</sub>	
削減量		(実) 149	t-CO <sub>2</sub>	(実)	t-CO <sub>2</sub>	
内訳	対策実施による削減量	(実)	t-CO <sub>2</sub>	(実)	t-CO <sub>2</sub>	
	上記以外の削減量	(実) 149	t-CO <sub>2</sub>	(実)	t-CO <sub>2</sub>	
削減率		(実) 3.5	%	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		延床面積			
原単位の単位		t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>			
基準年度の値		0.0271			
目標年度の値		0.0263			
削減率		3.0 %			

ウ 目標設定に関する説明

・「ラゾーナ川崎東芝ビル」「NREG川崎ロジスティクスセンター」の2物件で、川崎市内に展開する所有施設の9割強を占める。両ビルは竣工依頼、スマートBEMSによる最適運用を継続（ラゾーナ川崎東芝ビル）、省エネ機器の採用のもと日々省エネ・脱炭素に向けた活動を行っている。  
 コロナ過によるエネルギー使用量の低下もあったが、コロナ対策の方針の変更に伴い「活動」の回復も目立ってきた。賃貸稼働面積の満床も継続しながら、これまで行ってきた省エネ活動（施策）を継続することにより、活動目標をこれまでと同様に基準年度-3%を目指す。

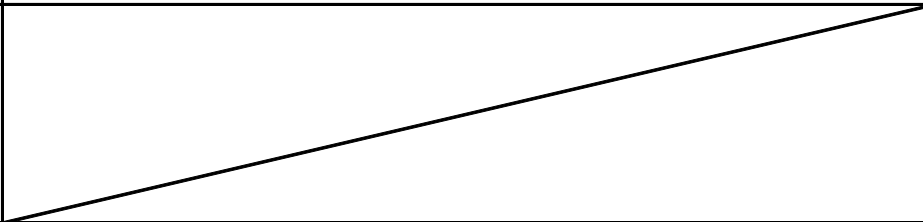
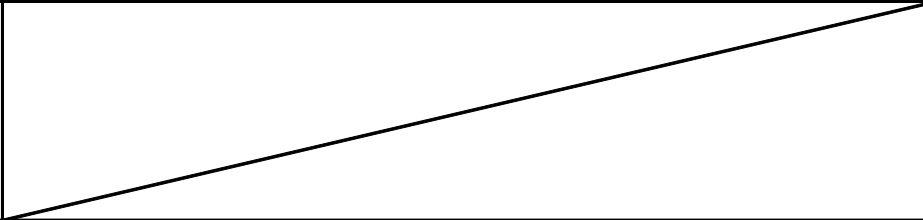
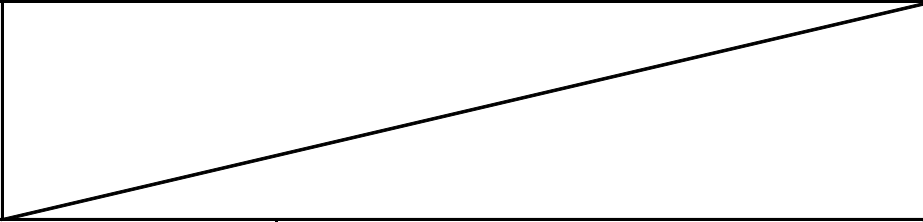
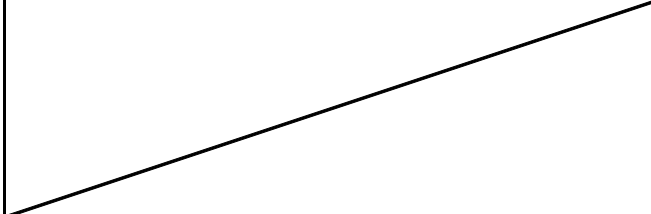
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①ラゾーナ川崎東芝ビル                  ○推進体制の整備                  排出量の相互把握を行い、情報共有体制を維持する。                  ○空調調和の管理                  ブラインドの管理による負荷の軽減および使用状況に応じた設備の運転時間・温度等の適切な設定を行う。                  ○換気設備の効率管理                  二酸化炭素濃度を定期的に測定し、換気量・時間を調整する。                  ○照明設備の効率管理                  照明の点灯を施す区画の限定、過剰又は不要な点灯防止のための点灯時間短縮又は消灯の実施。                  ②NREG川崎ロジスティクスセンター                  ○推進体制の整備                  排出量の相互把握を行い、情報共有体制を維持する。                  ③その他施設                  ○施設ごとの特性に合わせて、上記各対応を準用する。</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	NREG川崎ロジスティクスセンター屋上に増設を検討(保留)中。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他( )		
その他( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電設備	NREG川崎ロジスティクスセンター屋上に260kWの発電パネルを設置(250kW売電、10kW自家消費)	2014年3月

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	○
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他( )	
EV、PHV、FCV	×	その他( )	

5 他の者の温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出量

(実)	4,291	t-CO <sub>2</sub>
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

3,216	KL
-------	----

ウ 事業所の数

9
---

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
ラゾーナ川崎東芝ビル	川崎市幸区堀川町72番34号 ラゾーナ川崎東芝ビル	2,901 t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
NREG川崎ロジスティクスセンター	川崎市川崎区池上新町3-1-3	1,106 t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>